第 100 回定時株主総会 質問及び説明の概要

質問の概要
当社は 2050 年までの再生可能エネルギー由来の電力自給率 100%とカーボンニュートラル実現を掲げている。その過程である 2030 年から 2045 年については技術開発と外部技術を活用するとしているが、2030 年以降の技術開発において優先的に開発を行う技術は何か。また、そのシナリオへの阻害要因があれば教えてほしい。
説明の概要
2050 年には当社が消費する電力の 100%に相当する分を再生可能エネルギー事業で発電する電力により発電する計画であり、カーボンニュートラルは 2050 年を待たず 5 年前倒しでの 2045 年に達成する計画です。まず、再生可能エネルギーの開発については、地熱発電を中心に注力していく予定ですが、地熱発電は開発から環境評価、建設、操業まで長期にわたるビジネスであるため、常に複数箇所の開発案件を持ちながら、2050 年を目指して取り組みたいと考えております。また、風力発電や太陽光発電についても、当社が保有する国内の広大な土地、特にかつて鉱山操業のために確保していた森林等を活用して取り組みたいと考えております。また、カーボンニュートラルに向けての技術開発については、温室効果ガス排出を完全にゼロにするためのシナリオは現時点で完成しておりませんが、2030 年に向けて施設・設備の電化、そして使用電力を再生可能エネルギー電力にするところまでは具体的な計画ができております。2030 年以降については、様々な燃料代替技術や二酸化炭素を回収する技術等を含め、当社単独ではなく外部と連携し、計画を詰めていきたいと考えております。

質問の概要
当社が何を作っていてどのように社会に貢献しているのかが一般の人に認識されていないように思う。全社をあげて P R や広報活動を行えば、販路を広げることにも繋がるのではないかと。
説明の概要
一般の方への訴求、アピールが足りないのではないかとという点は、日常の事業活動に加えて採用活動においても重要であるため、広報活動については、今後更に対応を強化していきたいと考えております。具体的には、メディアへの露出を効果的に行うことを目指しており、聴衆は誰か、どのようなメッセージがどのような効果を有するかということ定量的に分析し、効果的に実施する取り組みを行っております。来年以降に活動の効果が表れてくると考えております。

質問の概要
<p>金属事業のリサイクル事業については、製錬マージンが減少している中でリサイクルを推進しているとのことだが、昨年ヨーロッパに立ち上げた新社やアメリカでの新規事業について進捗を教えてください。</p>
説明の概要
<p>現在、製錬マージンが下がっている状況であり、金属事業において、リサイクル事業の拡大を行うことは喫緊の課題であると認識し、取り組んでおります。一つは、イギリスの Exurban 社と共同で、アメリカのインディアナ州においてリサイクル原料 100%で操業を行うプロジェクトが進捗中です。現時点でいくつか技術的な課題がありますが、精力的に事業の実現可能性を検証している段階です。並行して、投資のための資金調達や用地の選定等についても精力的に推進しております。ヨーロッパについては、三菱マテリアルヨーロッパ社をオランダのアムステルダムに設立し、リサイクル事業の拡大に努めており、当社では E-scrap と呼んでいる廃電子基板の集荷をより強力に推進する計画です。E-scrap は従来も欧州から集荷しておりましたが、例えば欧州現地のマーケティング人材の採用等を積極的に行い、より強力な集荷のネットワークを作り上げております。加えて、日本で処理する E-scrap を増加させるため、いくつかの起業を行っております。</p> <p>欧州においては、昨年、超硬事業においてエイチ・シー・スタルク社を買収しましたが、同社はドイツのタングステンメーカーであり、タングステンカーバイド等のリサイクルを行っております。三菱マテリアルヨーロッパ社を中心に欧州で使用済み工具を回収し、ドイツのエイチ・シー・スタルク社でリサイクルを行うことを進めております。現在、超硬事業全体では、切削工具等の超硬製品のうち 60%程度をリサイクル原料から製造しております。</p>

質問の概要
<p>今後、太陽光パネルが順次寿命を迎えて廃棄されると言われている。太陽光パネルには銀が多く含まれていると聞くが、銀のリサイクルについては、どのような取り組みをしているのか。あるいは、どのように考えているのか。</p>
説明の概要
<p>再生可能エネルギー事業では、太陽光発電所を建てることに注力しており、太陽光パネルの回収段階には至っておりません。一般的には、一部の太陽光パネルは 20 年以上経っているものもあり、今後回収の段階に入るように思います。これについては、回収しリサイクルすることは検討に値するものの、費用対効果を十分に検証する必要があると考えております。</p> <p>太陽光パネルのリサイクルについては、かつて具体的な取り組みを行っていましたが、現在は費用対効果の関係で取り組みを中止しております。</p>

質問の概要
<p>中国におけるレアメタルの輸出規制に対する直接的な取り組みの有無について教えて欲しい。また、この影響を受け、自動車のモーターを生産できなくなったメーカーがあると聞いたが、自動車の部品関係は当社も多く製造していると思う。当初計画よりも利益が落ちているように見受けられるが、レアメタル輸出規制との関係を教えて欲しい。</p>
説明の概要
<p>加工事業カンパニーにおいては、昨年買収したエイチ・シー・スタルク社及び以前より当社子会社である日本新金属社の原料が関係します。現在、中国からのタングステンとレアアースの依存度は20%程度であり、当面の間は在庫もあるため、中国の輸出規制により大きな影響を受けるとは考えておりません。</p> <p>加工事業カンパニーでは、数年前からレアメタルの調達における中国依存の解消に取り組んでおります。具体的には、リサイクルによる調達とベトナムからの調達への切り替えを進めることで、中国への依存度を低減させております。</p>

質問の概要
<p>当社の事業と金の価格との関係について教えて欲しい。金の価格が上昇しているが、当社の株価にはその影響がないのはなぜか。</p>
説明の概要
<p>当社は、銅製錬の副産物として金を生産しており、当社が鉱山に支払う銅精鉱の購入価格には当該金の分が含まれております。このため、金の価格が上がったとしても、当社の利益になりません。金価格の上昇によりもっと利益が上がる筈だと思われる方も多いかとは思いますが、このような事業構造になっていることから、金価格の上昇は利益に影響はなく、株価にも反映されません。</p>

以 上